

令和6年度 学習分析事業 課題改善シート 三原市立本郷中学校

【別紙1】

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均

		国語	社会	数学	理科	英語	全体
1年	前年度結果 偏差値平均						
	本年度結果 偏差値平均	48.9	46.4	49.2	48.4	48.8	48.2
2年	前年度結果 偏差値平均	48.1	47.5	47.9	47.5	48.7	47.94
	本年度結果 偏差値平均	47.7	46.9	45.1	46.2	48.8	46.8
3年	前年度結果 偏差値平均	50.6	47.4	47.3	49.9	48.9	48.82
	本年度結果 偏差値平均	48.9	46.7	45.4	45	48	46.8
全体	前年度結果 偏差値平均	49.4	48.3	47.9	48.8	48.1	48.5
	本年度結果 偏差値平均	48.4	46.7	46.5	46.5	48.6	47.3

②学習環境分析 Q-U【1回目】

		1年	2年	3年	全体
一次支援	人数(人)	41	34	37	112
	割合(%)	51.9	35.1	47.4	44.8
二次支援	人数(人)	29	58	31	118
	割合(%)	36.7	59.8	39.7	45.4
三次支援	人数(人)	12	5	12	29
	割合(%)	14.6	5.2	15	11.6
学習意欲	学年(点)	17.9	18.1	18.4	18.13
	全国(点)	17.3	17.3	17.3	17.3

③全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	数学	英語
前年度結果 (対票比)	68 (98)	49 (100)	41 (95)
本年度結果 (対票比)	56 (96)	47 (90)	

④学習環境分析 Q-U【2回目】

		1年	2年	3年	全体
一次支援	人数(人)				
	割合(%)				
二次支援	人数(人)				
	割合(%)				
三次支援	人数(人)				
	割合(%)				
学習意欲	学年(点)				
	全国(点)				

2 令和5年度について

①調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】(NRTをうけて) ○国語…①段落の働きや物語の展開を読み取れていない。②物語文の前後の関係を読み取り、適語を補充することができない。 ○社会…①個別的知識を整理して理解しておらず、知識を関連付けて定着できていない。②資料から事実を正確に読み取ることができない。 ○数学…①符号や小数・分数を含む計算の基本的な知識・技能が身につけていない。②表やグラフを式で表現できない。 ○理科…①目に見えない基本的な概念の知識・理解が身につけていない。②実験・観察の結果を分析し解釈することが苦手である。 ○英語…長文の読解ができない。	【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて) ○数学…「データの活用」内容の累積度数の意味や箱ひげ図の見方などの基本的な知識・技能が身につけていない。その他にも「自然数」や「比例定数」の用語の意味が曖昧である。 ○英語…長文読解(れが示すものなど)ができない。特定の条件(指定された語句や文脈)の下での作文が苦手である。 ○国語…具体的な事例や根拠を挙げて説明をすることができない。
【学級・学年集団について】(1回目のQ-Uをうけて) ○クロス集計における「生活支援レベル」については一次支援の割合が全国を大きく上回る。(全国50.7%、本校3年75.0%、2年76.0%、1年68.5%)。 ○「学習支援レベル」については、一次支援の割合が全国と比べて下回るか、近い数値となっている。(全国53.1%、本校3年47.8%、2年53.3%、1年46.9%)。学年別では、1年生が生活支援・学習支援ともに最も低い。	【学級・学年集団について】(2回目のQ-Uをうけて) ・1年生は1次支援の割合が低下し、二次支援の割合が増加。学習意欲が全国を下回る。 ・2年生は顕著な変化は見られない。学習意欲はやや低下。 ・3年生は二次支援・三次支援の割合が低下し、一次支援の割合が増加。学習意欲が上昇。

②課題改善に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】 ○全教諭が、授業・家庭学習を通じて、各教科の基礎的・基本的な事項や語句の理解を進められるよう振り返り学ばせ、知識・技能を定着させる。 ○全教諭が、文章・資料の読解を学習活動に組み込み、思考・判断・表現力を向上させる。 ○自分の考えや思いを適切に言語化する力を育てる。 ○導入の工夫など生徒が興味関心をもつ授業づくりを進める。	①5教科の各担当を中心にNRTの結果を分析し、課題の抽出と改善に向けた取組を検討し、全体研修を通じてその内容を共有する。 ②全教員が資料を読解し、考えを表現する活動を授業に組み込む。 ③全教員が、定期試験に「資料の読解」について評価する問題を出し、授業でフィードバックする。 ④全学級で、本GOノートを活用して、基礎的・基本的な知識の反復と学習内容のまとめを家庭で取り組めるよう手本を示す。 ⑤思いや考えを表現できる力の育成に向けて「振り返り」の改善を図る。	①7月～8月 ②年間を通して ③定期試験(10月中旬、11月下旬、学年末) ④年間を通して ⑤10月～	○各教科で、3学期に入ってから、今年度NRTで課題のみられた問題を抽出して、もう一度解かせ、正答率を向上させる。 ○生徒授業アンケート「書くこと」の肯定的評価の向上
【学級・学習集団づくり】 ○全教諭が、NRTとQ-Uのクロス集計表における三次支援・二次支援の必要な生徒について共通理解を深め、適切なかわりを行う。 ○「何のためにやるのか」「何をどうしたいのか」を考えさせる中で、生徒会・委員会活動を活性化させる。	①Q-Uの結果に基づいて、各担任とSCとのコンサルテーションを実施する。 ②コンサルテーションに基づき、生徒とのかかわりや学級経営の仕方を見直し、各学年で話し合い、全体で共有する。 ③全学級において、学期1回以上の個別面談を実施する。 ④生徒指導部を中心に、生徒の状況について報告・連絡・相談を緊密化させ、確実な取組を行っていく。職員例会等で生徒指導報告を行い、全教員が生徒指導の状況を把握する。 ⑤教職員全員でルールや規律の見直し・共通理解を図り、生徒の活動につなげる。	①6～7月 ②8月 ③学期に1回 ④7月～3月 ⑤9月～	○12月のQ-Uにおける三次支援・二次支援生徒の減少 ○生徒アンケート「学校への満足度」「主体的な活動」への肯定的評価の向上

3 令和6年度について

①調査から明らかになった課題

【学力調査について】 (NRTをうけて)課題のあるもの ●国語 漢字の書き。要点をとらえ内容を解釈する。目的に応じて工夫して書く。 ●社会 基礎的な事象の定着が不十分。資料の読み取りや解釈。近代の歴史。 ●数学 基礎的な計算の定着が不十分。箱ひげ図、ヒストグラム等のデータの活用。 ●理科 力の働き、状態の変化等の基礎的な概念の理解が不十分。 ●英語 考えや気持ちを伝えること。適切な表現を用いて英語を書く。 (全国学力・学習状況調査をうけて) ●国語 短歌に用いられている表現技法。言葉の特徴や使い方に関する事項。 ●数学 等式を目的に応じて変形すること。簡単な場合の数について確率を求めること。	【学級集団について】 (1回目のQ-Uをうけて) ●「学習支援レベル三次支援の生徒の割合」 1年生11.4%(全国6.7%) 2年生5.2%(全国6.7%) 3年生12.8%(全国6.7%) 各クラスに2～3人個別の支援が必要な生徒いる。2年生は二次支援の割合が59.8%(全国40.2%)であり、学習面で厳しい状況である。 ●非承認群は、3学年とも全国平均とほぼ同じ。平均するとクラスに5人程度である。 ●学級生活不満足群は各学年10人程度いる。日頃の観察や声掛けが必要。 (2回目のQ-Uをうけて) ● ●
---	---

②課題改善に向けた学校組織全体の重点取組等

重点取組上記課題を踏まえたもの	具体的方策(継続して取り組めるもの)	検証指標及び時期
【学力向上について】 ・まとまった文章を書くこと ・長文の読み取り ・四則計算の確実な定着	①「対話」と「振り返り(R80)の充実を通して、授業改善を図る。 ②事実と解釈を明確にして、表現(書く)する活動の充実。 ③SHRの時間、家庭学習で基礎的な問題に取り組ませる。 ④本GOノートのモデルを紹介し、目的を持って家庭学習に取り組ませる。	○①② 学期ごとにアンケート実施。実施率100% ○② 定期試験で、資料を見て(読んで)考えを記述する問題を実施。実施率100% ○③ 本GOノート(毎日の課題ノート)をやりきらせる。提出率90%以上
【学級・学習集団づくりについて】口 ・安心できる居場所づくり ・支持的風土の醸成 ・学習規律・学習環境の整備	①行動観察、生活ノート、面談等から生徒の心情理解に努め ②コンサルテーションによる学級経営の改善 ③帰りの短学活や放課後の時間で、ドリルパークやセミナー等を活用し、個別の理解度に応じた主体的な学習時間をつくる。	○① 第2回QUで、学級生活不満足群の人数を第1回調査の人数より減少させる。(第1回34人) ○② スクールカウンセラーによる担任へのコンサルテーションの実施。1学期中に。 ○③ 第2回QUで、三次支援の生徒の割合を減少させる。